

児童・生徒の現状・課題

学習計画を立てて課題に取り組むことができる生徒が60%以上いるが、40%弱の生徒は、計画的課題を進めることができず、諦めてしまう場面もある。また、難しい計画を立てて、計画通り進むことができず、粘り強く取り組むことができない生徒もいる。

**学び続ける力を育むための重点目標**

生徒たちが、自らの学びを自ら進めるために、「できる」「理解する」「参加する」につなげるため「より広い見方」や「より深い考え方」の学習ができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	65.0%	75.0%	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など。学び方を自分で選び、学習を進めることができる。	75.3%	90.0%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	90.0%	95.0%	
②授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	84.3%	90.0%	

具体的な手だて①

- ・教具を用いて授業の目標・流れ・ゴールを明示する。
- ・家庭学習の適切な計画を立てさせ、実行するように指導する。
- ・既習内容との関連を行い、単元の全体像と各時間の目標を提示する。

具体的な手だて②

- ・授業内の10分間学習する時間の設定(教科書の選択、課題提出方法の選択を含む)
- ・それぞれの力に合わせた課題(問題)を用意し、生徒自身が選択、全員が「参加」できるようにする。

具体的な手だて③

- ・対話的な活動や考えを共有、見直す時間の設定と進捗状況の確認を教員と行う
- ・授業の振り返りを内容だけでなく、学び方についても振り返りの場面を設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・教員・生徒向けに実施したアンケート結果を共有し、各教科の特性を生かした授業の展開を行っていく。
- ・夏季休業中に生成 AI を活用し、「学び続ける力の育成」のための、授業の指導案を全教員が作成し、当事者意識を高めるとともに、教科部会、研修会で共有、検討し、授業実践につなげる。

総括(5月) 生徒の学習に取り組む姿勢に個人差がある。最後まで粘り強く取り組める生徒もいれば、なかなか集中して取り組めない生徒もいる。授業だけでなく生活環境からも考えられることで、自身の興味関心があることの情報をより多く収集し、分からない・理解できないことはすぐ解決・回答を探することができるが、解決・回答を見つけたら、それ以上深く考えたり、行動に移したりすることができないと考えられる。生徒があきらめずに、学習に「参加」して、「わかる」ことができるように教員が指導方法の工夫改善に取り組んでいく必要がある。そこで、日常の授業において、生徒が「参加」できるような課題設定や取組をし、「与え過ぎないこと」＝「生徒が主体的に思考し行動することにつなげること」ができるよう、生徒の現状を把握し、教員が適切な支援に関する準備をし、授業改革を行っていく。

総括(1月)